

JRC 2010

JRS 第69回
日本医学放射線学会総会

JSRT 第66回
日本放射線技術学会総会学術大会

JSMP 第99回
日本医学物理学会学術大会

未来の医学は放射線の中に —The Future of Radiology is Here—

ITEM 2010
in JRC 2010 国際医用画像総合展



JRC 2010が4月8日(木)～11日(日)の4日間の日程で開催された。大会期間中は穏やかな天気が続き、会場のパシフィコ横浜があるみなとみらい地区では、花冷えが続いた春先の気候の影響からか、大会最終日の11日まで桜を眺めることができた。

今回のJRCは、「未来の医学は放射線の中に—The Future of Radiology is Here—」がテーマに掲げられた。大会2日目の9日午後から行われた合同開会式では、第69回日本医学放射線学会総会(JRS)の杉村和朗会長が、「放射線医学は、医療機関の中で中心的な存在であるにもかかわらず、放射線科医数が少ない。これは日本の医療にとって、大きな問題である。放射線医学ががんばらなければ医療は良くならない」と、大会テーマに込めた思いを説明した。

合同開会式には、このほか日本ラジオロジー協会の遠藤啓吾代表理事、第66回日本放射線技術学会総会学術大会(JSRT)の石井 勉大会長、第99回日本医学物理学会学術大会(JSMP)の加藤博和大会長、2010国際医用画像総合展(ITEM in JRC 2010)を運営する日本画像医療システム工業

会の加藤久豊会長が出席した。

この合同開会式において、JSRTの石井大会長は、例年に比べ研究発表主体の学会となるようにゆとりのあるプログラムを構成したと説明。それにより、ITEMが行われている展示ホールにも足を運びやすくしたと述べた。また、JSMPの加藤大会長は、物理学は歴史的にも放射線医学に貢献してきたと述べ、これまでのJSMPの歩みを振り返った。JSMPは今年、学会設立50周年を迎えるが、2009年12月時点の会員数は1680名で、前年から約180名増えている。また、今大会での演題数は180題と、2007年の1.7倍にも上るという。このような状況に対して加藤大会長は、がん対策推進基本計画により、医学物理士の存在が注目されるようになってきたことなどを要因として挙げ、JRCの合同企画や、JSMPのシンポジウム「医学物理士を医療現場に定着させるためのロードマップを考える」を今回のプログラムに盛り込んだと説明した。



今回のJRCでは、大きな変更点が2つあった。その1つは



遠藤啓吾 JRC代表理事



杉村和朗 JRS会長



石井 勉 JSRT大会長



加藤博和 JSMP大会長



加藤久豊 JIRA会長

従来の事前登録をなくして当日参加登録とし、合同の受付登録場所をこれまでの会議センター1階からITEM会場がある展示ホールAへ変更したことである。ITEM会場の近くへ移動したことによって、ここ数年、ランチョンセミナーを含めた過密な大会スケジュールにより機器展示を見る時間を確保するのが難しい状況になっていた参加者が足を運びやすくするねらいもあるようだ。

この展示ホールAには、電子ポスターを閲覧するためのCyPos会場が設けられたほか、従来のCyberRadに変わる実機展示が設けられた。JRS、JSRTの一般演題として位置づけられており、6題の展示が行われた。CyberRadは、名古屋で開催された1995年のJMCPで初めてPCによるインターネット企画展示が設けられ、その後、電子情報フォーラム(CyberRad)という名称で、JRS、JSRT、JIRA三者合同の学術展示として続けられてきたものだ。一般演題、テーマ展示、チュートリアルなどから構成されたCyberRadは、PCを使った情報システム系の発表や、医療ITの普及などをアピールする場として、また、情報システムの標準化推進をテーマにしたIHEの相互接続デモの場として、重要な役割を果たしてきた。2005年から始まった電子ポスター(CyPos)が1つの転機となって、CyberRadはその役割を終えたと言えるのかもしれないが、これからますます不可欠となる医療ITに対する学会や産業界の取り組みを示す場がなくなったことは惜しまれる。

JRC 2010では、合同プログラムとして、合同企画が4セッションが設けられた。このうち、大会2日目の合同開会式後には、合同企画1「広がる放射線医学の役割」が行われた。このセッションでは、「救急放射線」、「General Radiology」、「検診」の3つのテーマについて、JRSとJSRTそれぞれの演者が発表する形式で進められた(4ページ参照)。このほかの合同企画としては、今年度の診療報酬改定を受けて9日に合同企

画2「医療経済における放射線医療」が設けられた(5ページ参照)。10日にはJSMPの加藤大会長が合同開会式の挨拶の中でも触れた合同企画3「放射線治療における専門職の役割」(6ページ参照)が、11日には社会的な関心が高まっているAiをテーマに取り上げた合同企画4「Autopsy Imagingの将来展望」(7ページ参照)が行われた。

これ以外の合同プログラムとしては、10日に合同特別企画トークショーが設けられた(8ページ参照)。このトークショーでは、「折れない心」をテーマに、柔道家の野村忠宏氏をゲストに迎え、多くの聴衆を集めた。また、4月3日には、兵庫県医師会館において、市民公開講座「前立腺がん―早期発見からやさしい治療まで―」が行われた。このほか、2007年からスタートしたCTコロノグラフィのトレーニングコースも実施され、画像処理ワークステーションのハンズオンに80名が参加した(27ページ参照)。産学連携セミナーについても、例年同様に行われ、東芝メディカルシステムズ、島津製作所、富士フイルムメディカル、AZEが連携企業として、それぞれのセミナーを担当した。

学会別にプログラムを見ると、JRSでは、杉村会長が学会の国際化を重要課題に挙げたことから、International Sessionが4テーマに分けて設けられた。これらのセッションでは、「Current Status and Future Direction of Interventional Radiology」、「Current Status and Future Direction of Neuro MRI」、「Current Status and Future Direction of Diagnostic Radiology」、「Current Status and Future Direction of Radiation Oncology」の各テーマにもとづいて、米国、欧州、中国・韓国などアジア、そして日本の研究者が、現状と将来展望について発表した(10ページ参照)。このほか、特別講演や招請講演にも海外から多くの演者が招かれた。

さらに、JRSでは今回、RSNA 2010の大会長を務める米国のHedvig Hricak氏(Memorial Sloan-Kettering Cancer Center)、韓国のByung Ihn Choi氏(Seoul National Uni-

versity)、ドイツのBernd Hamm氏(Charité University)の3名の著名な研究者を名誉会員として表彰した。最終日の11日の午前には、杉村会長と大友 邦JRS理事長が司会を務め、名誉会員によるHonorary Awarding Lectureが行われた(9ページ参照)。これらの企画に加え、JRSでは発表スライドを英文で作成することを推奨するなど、学会の国際化に取り組んだ。

JSRTでは、特別講演が2題用意された。10日午前の特別講演1では、「日本人が才能を発揮する勝負脳の脳科学」をテーマに、日本大学大学院の林 成之氏が、同日午後の特別講演2では、「Photon Counting Detectors in Mammography」をテーマに、KTH Royal Institute of TechnologyのMats Danielsson氏が講演した(22ページ参照)。このほかJSRTでは、フィルムレス、PET・PET/CT、心臓CTをテーマにしたシンポジウムなども行われた(22～25ページ参照)。

JSMPでは、前述の医学物理士をテーマにしたシンポジウムが行われたほか、金澤 右氏(岡山大学)による特別講演「Interventional OncologyとRadiation Oncologyの調和」が9日午前にあった。

なお、今回のJRCにおける口述発表は、JRSが449題、JSRTが390題、JSMPが180題で、いずれも前回は上回った。展示発表はJRSが320題、JSRTが417題となった。最終日には閉会式に先立ち表彰式が行われた。JRSのCyPos賞プラチナメダルを平木隆夫氏(岡山大学)の発表「肝細胞癌肺転移に対するラジオ波焼灼療法：日本における多施設共同研究の結果」、JSRTのCyPos賞大会長賞を丹治 一氏(北福島医療センター)の発表「Phase cycling Diffusion Prepared Imaging (PC-DPI)とSE-EPI DWIにおける拡散反映能の比較検討」がそれぞれ受賞した。また、JSMPのCyPos賞大会長賞には6名が選出された。

今回の学術大会の参加者数はJRSが4481人、JSRTが3749人、JSMPが496人、学生が1137人、非会員が1053人で、合計1万916人であった。これで2年続けて1万人の大会を超えたことになる。一方、ITEMは出展社数が過去5年間で2番目に少ない137社となり、出展面積も過去5年間で最小の8054m²であったが、受付登録場所が展示ホールAになったことや出展企業から新製品が多く発表されたことの効果もあり、3日間で2万977人が入場。2万人台に戻った。

今回のJRC 2010は、2011年4月7日(木)～10日(日)の4日間、パシフィコ横浜で開催される。テーマは、「放射線診療の明日―多様性を推進力に」。JRS会長を大友 邦氏(東京大学)、JSRT大会長を江島光弘氏(東京女子医科大学)、JSMP大会長を丸山浩一氏(北里大学)が務める。

JIRAが「画像診断機器関連産業2010」を発行

(社)日本画像医療システム工業会(JIRA)は、ITEM初日の4月9日(金)に恒例の記者発表会を行い、「画像診断機器関連産業2010」の発行を発表した。2006年から発行を開始した同書であるが、5年目の区切りとなる今回は、5年間のJIRAの活動を振り返りつつ、2010年度の診療報酬改定に対する取り組みなどを紹介している。頒布価格は、JIRA会員が3150円、非会員が5250円(いずれも税込み、送料別)。申し込みは、Webサイト(<http://www.jira-net.or.jp/publishing/publishing.html>)から購入申込書をダウンロードの上、FAX03-3818-8920まで。



合同受付登録場所の展示ホールA



ITEM開会式



実機展示の様子



合同特別企画トークショー



メインホールで行われた合同シンポジウム4



CTコロノグラフィーコースでのハンズオン



JRS名誉会員の記念講演を行ったRSNA 2010大会長のHedvig Hricak氏



最終日に行われたCyPos賞表彰式



閉会式で挨拶する次回JRS会長の大友 邦氏